

平成29年度N I E 実践報告

与論町立与論中学校

1 はじめに

本校は鹿児島県最南端の中学校で、与論町内唯一の中学校である。平成30年1月末現在の生徒の在籍数は156人である。また、本校は連携型中高一貫教育校であり、卒業生のほとんどは地元の県立与論高等学校に進学する。

本校は、平成26年度より日本新聞協会からN I Eの実践指定を受けて研究に取り組んできた。与論町では新聞の配達は午後に行われるため即時性を欠き、県本土と比較すると生徒の新聞に対する意識は異なっているように思われるが、N I Eの実践を進める中で、その教育効果が見られるようになってきた。今年度は実践の4年目にあたり、これまで行ってきた実践を継続しながら、少しずつ新たな活動も取り入れてきたので、取組の実際について報告したい。

2 取組の実際

(1) N I E 掲示板 の設置

平成27年度に開設したN I Eの掲示板を活用し、新聞のスクラップ活動を行った。生徒たちの興味を引き出すために、たくさんの記事を一気に掲示するのではなく、掲示する記事を少しずつ変えていった。掲示板の前に立ち止まってスクラップを見ている生徒も多く、友だちの名前や記事に反応している様子が見られた。



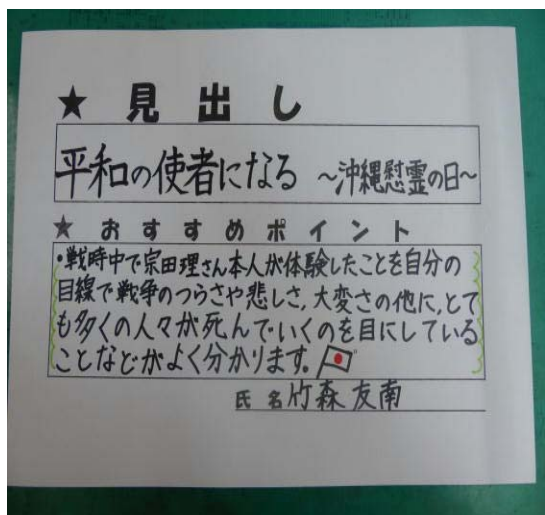
【写真1】平成28年度のN I E 掲示板



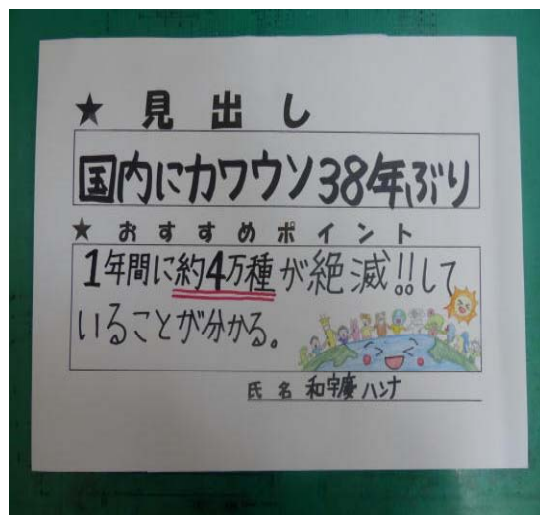
【写真2】平成29年度のN I E 掲示板

(2) 新聞を活用した授業の実施

国語科の授業では、生徒の表現力育成を目的として、新聞記事に関連する本の紹介をする活動を行った。生徒自身が興味をもって選んだ新聞記事のポイントをまとめ、関連する本の紹介をする活動は、文章を読み取る力及び書く力、話したり聞いたりする力を伸ばす上で重要である。指導に当たっては書くことを苦手としている生徒のために、事前に例示することを意識的に行った。また、人前で話すことに苦手意識をもつ生徒のために、発表の仕方を例示し、相手により確実に伝わる発表の仕方を意識させた。そうすることで、ほとんどの生徒がスムーズに発表の原稿を書き、堂々と発表することができた。また、他者の意見や発表の仕方から学ぶ点を、自分のものの見方や考え方に生かしていくことができたようである。



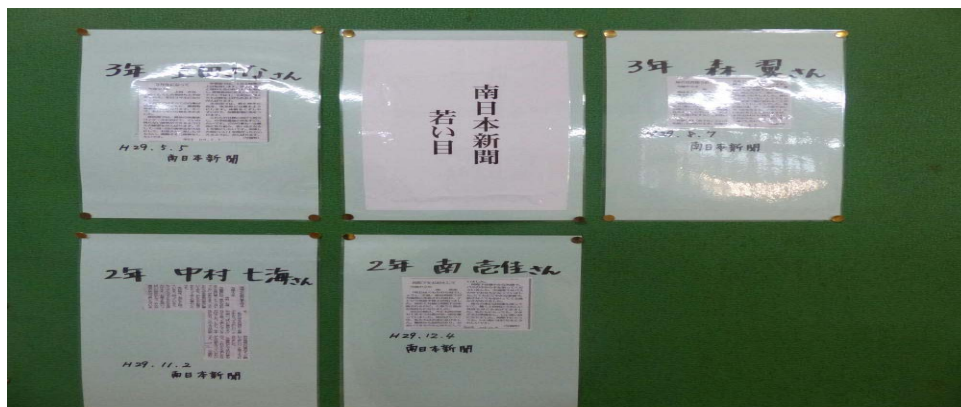
【写真 3】生徒作品①



【写真 4】生徒作品②

(3) 「若い目」への作文投稿

NIE実践の1つとして、南日本新聞ひろばコーナーの「若い目」への投稿に取り組んできた。新聞に自分の書いた記事が掲載されることは、生徒たちの自信につながるとともに、他の生徒の意欲を引き出す刺激にもなっている。



【写真 5】NIE掲示板に掲示した生徒の投稿記事（「若い目」）

(4) テレビ会議システムを用いた職業インタビュー

本校ではキャリア教育の一環として、平成28年度から南日本新聞社の協力を得て、第1学年時の総合的な学習の時間で「職業インタビュー」に取り組んでいる。平成29年度はKTS（鹿児島テレビ）のアナウンサーや平川動物公園の学芸員、鹿児島レブナイズ（バスケットボール）の選手という、普段は会うことが困難な職業の方々にお話を伺うことができた。平成27年度までは、離島という立地条件等から島内にある限られた職業についてしか調べることができなかったことを考えると、テレビ会議システムを使った職業インタビューは、実際に相手の顔を見ながらお話を伺うという、生徒にとって非常に貴重な、生きた体験となった。また、会場となった鹿児島大学の学生と講師の方との意見交流からも学ぶことがあった。生徒の感想を見ても、「進路の参考になった」「初めて学んだことが多くあった」と非常に感銘を受けた様子であったため、可能であれば今後もぜひ実践を続けていきたい。



【写真6】インタビューをする生徒①



【写真7】インタビューをする生徒②



【写真8】講話のメモをとる生徒



【写真9】積極的に質問をする生徒

生徒の感想

私もがんばって自分のやりたいことが仕事にできるようにがんばろうと思いました。山田さんの話を聞いて、とても勉強になったし、初めて知ったこともたくさんあって、とても楽しかったです。

(バスケット選手の話について)

「積極性」についてお話をされたときに思ったのが、私自身、生徒会副会長としてしっかり「積極性のある学校にしていきたいということです。今回は、本当に貴重な経験をありがとうございました。

(アナウンサーの話について)

(5) その他の取組

ア 朝読書におけるN I Eの活用

本校では、週3日、8時15分からの15分間、朝の一斉読書に取り組んでいる。この時間は基本的には自分で選んだ本を読む時間となっているのであるが、時期を見て新聞記事を使った取り組みも行った。例えば、本校で5月と11月に実施している「生命尊重重点週間」の期間中に、読書指導部で選んだ生命尊重についての新聞記事を全校生徒数印刷して配布し、係が放送を使って読み上げ、これを生徒は聞きながら黙読する取り組みを行った。全校生徒で同じ記事を読むことで、記事内容に関する意見の交流等が行いやすくなったことを感じた。



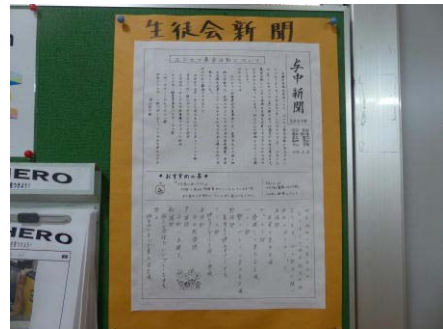
【写真10】新聞記事の一斉放送



【写真11】新聞記事を読む生徒

イ 生徒会新聞の作成

本校では生徒会新聞を作成することを近年行っていないが、N I E実践の絶好の機会と捉え、平成29年度は生徒会本部役員による生徒会新聞の作成を行った。生徒たちにより興味をもってもらうために、生徒会活動であるユニセフ募金や合唱コンクールへの取り組み、地区総体に向けての意気込み、学校で取り組んでいるSNSの利用の仕方についての生徒アンケート、おすすめ本の紹介などを記事にまとめさせた。



【写真12】生徒会新聞の掲示

記事を担当した生徒は、ほぼ初めての経験であったが、非常に内容の濃い記事を書くことができており、また、他の生徒にも興味深い内容になっていた。これも、今までのN I Eの活動の成果ではないかと思われる。

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

ア N I E 掲示板の設置により、新聞を離れが進む現状にある生徒たちが、新聞に触れる機会や興味をもつきっかけ作りになった。

イ 国語科の授業においては、互いにスクラップ記事等を読み合い交流することで、多様な考え方やもの見方に生かしていくことができた。また、表現力向上につながり、学力向上に効果的であると実感できた。

ウ 「若い目」への寄稿の取り組み、生徒会新聞の作成の取り組み等で、生徒の作文意欲を向上させることができた。

エ N I E 実践校であることがきっかけとなり、テレビ会議システムによる職業インタビューの機会を得ることができ、キャリア教育へも生かされた。

オ 生徒の興味関心を引きだす新聞記事が多様な活動に活用できることに改めて気付かされた。

(2) 今後の課題

ア この実践が一部の教員の取り組みとならないよう、教師間の連携を図りながら学校全体で取り組みを継続する必要がある。

イ 新聞記事を材料として生徒の主体的・対話的で深い学びにまで発展させる必要がある。